

平成26年度 自己評価書

学校名	和歌山市立野崎西小学校
校長氏名	小中 弘彦
作成日	平成27年3月3日

1 教育目標

自ら学ぶ意欲と強い信念を持ち、社会の変化に主体的に対応して
たくましく生きる心豊かな児童の育成に努める。

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	・保護者や地域へ積極的に情報発信を行う。 ・地域の教育資源や人材を生かした学校教育活動を行う。	・学校教育活動全体を通して、道徳教育の充実を図り、生命や人権を大切に教育に取り組む。 ・特別支援教育を大切に、一人一人を大切に教育を進める。 ・学年、季節に合わせた様々な体験的な活動を多く取り入れ、心豊かな子どもを育てる。 ・組織を大切に全職員で全児童を育てる。	・基礎基本の習得を図り、基礎学力の向上に努める。 ・一人一人を大切に、子どもが主体的に取り組む授業を目指す。 ・保護者と連携を取り、正しい学習習慣を身に付けさせる。

取組の状況【D】	・地域や外部の教育力を生かすためにゲストティーチャーを学年に応じて要請し、さまざまな授業を実施した。 ・公民館と連携して、作品展を開催した。 ・公園の清掃を地域自治会と連携して行った。 ・和歌山大学から学習ボランティアを要請し、体力向上や特別支援教育に活用した。 ・学校開放月間での取組みを広く広報し、一人でも多くの保護者や地域の方々に学校での活動を見てもらい、学校への意見を頂くことができた。 ・秋に実施した避難訓練は保護者、地域、関係機関と連携して実施することができた。	・学年に応じた道徳教育の資料の活用を行い、体験活動と道徳の時間を計画的、発展的に行った。 ・社会、理科、総合的な学習、生活科で学年に応じた体験活動を取り入れ、体験活動を通じて、協力することや思いやりの心を育てた。 ・児童会活動を中心に地域公園の清掃やボランティア活動に取り組んだ。 ・運動場の芝生化に伴い休憩時間を中心に運動場での遊び体験を増やすことで、子どもの体力と豊かな心を育てた。 ・教職員全員が子どもにゆたかな心を育てるために組織的に取組み、全職員で全児童を育てる学校運営を定着させた。	・基礎学力の定着を図るために毎日の「昼学」を計画的に運用し、有効に活用した。また月曜日と金曜日にフォローアップタイムを設定し、補充学習に取り組んだ。 ・現職教育等の機会をとらえて、子どもの学力の実態を把握し、全教職員が共通理解した上で学力向上に取り組んだ。 ・一人一人の子どもに、学ぶ喜びや分かる喜びが感じられる授業のあり方について研究し、授業力向上や授業改善に努める。 ・保護者との連携を取りながら、基本的な生活習慣や家庭学習の定着を目指した。
取組の成果と課題【G】	・学校評議員さんや学校関係者評価委員さんに学校を訪問して頂き、率直なご意見をいただいた。そのことを謙虚に受け止めて、学校改革に生かしたい。 ・ゲストティーチャーの要請は年度により違いがあるので学年に応じて計画的に実施する必要がある。 ・避難訓練、緑道の清掃活動、公民館と連携した作品展示会などの地域と連携した行事は毎年続けることでより充実した活動にしていきたい。	・いじめアンケートを毎学期実施することでいじめの芽を摘み取り、早期発見早期指導をすることができた。また生活指導部会で問題を話し合うことができ、きめの細かい指導に結び付いたのことで来年度も多くの機会を持つことでいじめの防止に努めたい。 ・体験活動を通してゆたかな心を育てることはできていたが、体験活動の事前事後の指導がより児童の心を動かすことになるので、計画的な取組をしなければならない。	・平成26年度の全国学力テストの結果を見るとほぼ全国平均を下回っていた。全国平均をほぼ上回っていた25年度と比べると残念な結果である。年度によって大きな差があるので毎年和歌山県平均の正答率に近い数字を残すために職員が共通理解の上で学力向上に向けて取組まなければならない。 ・平成26年度和歌山県学力テストの結果を見ると、4年生6年生の正答率が和歌山県平均を下回っているのが大きな課題である。5年生については昨年度より改善されている傾向にある。
次年度に向けての改善方法【A】	・和歌山大学への避難訓練を来年度はさらに連携を強化して実施する。 ・学校開放月間を中心にできるだけ多くの保護者や地域の方に学校に来ていただけるような計画を学校や学年で計画し、広報をしていきたい。 ・ホームページの更新や学校便りに力を入れて、多くの方に学校での子どもたちの様子を知っていただけるよう情報発信を行う。	・いじめ対策として、「いじめ防止のマニュアル」に基づいて、すべての教職員が同じ対応ができるようにする。 ・学年や季節に応じた体験的な活動の計画表を作成することで6年間を見通した体験的な活動を実施する。 ・規範意識を高めるために全教育活動を通して道徳教育を充実させる。 ・情報モラル教育を学年に応じて計画的に実施する。 ・「いじめ」に対する取組を学校便りに積極的に掲載し、保護者との連携を図る。	・学力・体力向上委員会を中心に、児童の学力や体力の向上について話し合い。具体的な手立てを決め、学校が一丸となって共通理解のもとに取組を進める。 ・国語主任、算数主任が中心となり昼の学習の資料を作成し、計画的に昼の学習を進めていく。 ・授業力向上に向けて教職員全員が授業を通した研修を行う。 ・フォローアップタイムや教員個々の授業力の向上を目指して「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条を徹底させることで学力の向上を図る。 ・「家庭学習のてびき」と「早寝早起き朝ごはん」のリーフレットを作成したので、家庭への協力を保護者に積極的に伝えていく。 ・チャレンジ問題やeライブラリーの活用で全職員が取組む。

3 その他の課題

校舎の老朽化が進み、保護者からは改善を求める声が数多く寄せられている。学校でできることは校務員さんを中心に環境整備に取り組んできたが、優先順位をつけることでできるものから実施していく。
体育科の研究校として生涯体育を念頭に入れた体育の授業を実施していくことで、運動好きの子どもを育てていく。放課後の学校開放を通して、子どもたちの体力向上を目指したい。